



楽々亭通信

第23号
令和4年7月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

6月の楽々亭を

開催いたしました



■「悪人の自覚」

本願寺派布教使
安堂芳雅

●戦争

ロシアによるウクライナの軍事侵攻が始まってから、4か月がたちました。

「早々に停戦交渉が成立するのでは」と思っていたのですが、ニュース解説をきくと、この戦争には歴史的、経済的、そして政治的背景があつて、簡単には終結しないようです。

“正義の反対は悪ではなく、「別の正義」だ”

まさに、この言葉通り、両国の正義と正義のぶつかり合いですから、いったいどれだけのものが犠牲になるのでしょうか。

●「善人の家と悪人の家」というお話があります。

二軒の家が並んであります。

一軒は毎日家族が喧嘩ばかりしていますが、もう一軒は、とても仲が良いのです。

喧嘩ばかりの家の主人が、隣の主人に仲良くできる秘訣を訊ねました。

すると、仲良し家族の主人は、「あなたの家はきつと、”善人”ばかりのご家族でしょう。我が家は、”悪人”ばかりの集まりですから、それで喧嘩がないのです。」と

いう、よくわからない応えが返ってきました。その翌朝のことです。

仲の良い家が、何やら大騒ぎをしています。どうやら、飼っていた馬

が、小屋から家に飛び込んで、大暴れしたらしいのです。

「これは喧嘩が始まるぞ！」と、あわてていてみると、想像していた様子と全く違います。

「ワシが悪かった。夕べ、馬をしつかり繋いでおかなかつたからだ。そのせいで、こんなことになってしまった。」とお

じいさんがいう。と、おばあさんが、「あんたじやない、私が不注意でした。私が悪いんです。」という。

すると、息子が、「お父さんお母さん違います。年寄り早く寝て当然なのに、私が確かめなかつたからです。私が悪いんです。」

すると、その奥さんが、「いいえ、あなたではありません。何も気がつかなくつた、私が悪かったです。」というのです。

家中で、「私が悪い」「いいえ、私が悪い」と、言い合っているのを見て、やっと『喧嘩一家』の主人は気がつきました。

「なるほど、隣の主人が、『我が家は”悪人”ばかり集まっているから、喧嘩にならない。お宅はみんな”善人”だから、喧嘩が絶えないのでしょう』と、教えてくれたのは、このことだったのか。我が家も見習つて、”悪人”ばかりの家にしたものだ」と、言いながら帰つたということです。おしまい、おしまい。

このお話、皆さんはどのように思われましたか？

●お釈迦さまは、迷いの私たちがさとりを開くには、八つの正しい道を行じていかなければならない、と

おっしゃいました。

その一番目が、「正見」（正しく見る）です。具体的には、「ありのままに見、ありのままに知る」ことです。聞くと簡単なことのように思いますが、それがそれが・・・

というのは、私たち凡夫は、自分中心の心（煩惱）のフィルターをかけてしかモノを見ることができないからです。さらに厄介なのは、この自分の見方を絶対に正しいと思つてしまふのです。

それぞれが自己中心のフィルターをかけるのですから、同じものを見ても見え方が違います。それが意見の違いとなり、対立、争いを引き起こします。

もちろん、自分は「是であり、正であり、善」で、対する相手は、「非であり、誤であり、悪」となります。私が「善」だと胸を張つた時、私が「正」だと拳を振上げた時、そして私は

「是」だと思った時、もう一度「心のフィルター」を確認してみたいものです。

その中で「不確かな自分」と出合えば、きつと「お互いさま」「おかげさま」と、大事にし合う、あたたかな世界が開けると思いますが。

楽々亭に参加してみてもいい

その3

古知谷の経験から

古知谷は京都の北に端に位置し、山の裾野のお寺(お寺の名前は忘れまじ)での念仏会はとかく正月ですからとても寒い所で、前の晩お風呂の入って干して置いた手拭いが朝パンパンに凍りついて顔を拭けない状態になるほどの寒さです。本堂には火鉢が3個(50人ほどの参加)。寝所は30人程ですが、火鉢が1個。初めの日は寒くて眠れない程ですが、日が経つに連れなれと疲れて寒いのは感じなくなりまじしたね。私17歳のお正月です。

朝8時30分から夜8時まで食事の時間以外は午前1回、午後1回お坊さんのお話がある以外はただただ「南無阿弥陀仏」と念仏を木魚を叩きながら唱えるだけ、正座をしますので1日目は足が痺れ、2日目はその足が痛くなり、3日目にはなれてきました。3日目はなれてきたが、何でもこんな苦しい事をしなければならぬのかと、自問自答しながら念仏をします。時は妄想ばかり湧いてきますね。早く食事の時間にならないかと、もう何分すればお話し

の時間になるかと、友達は正月みんなで楽しく過ごしているのだからなあと。不謹慎と言われればその通りですが凡人の私には仕方ない事でした。

3日目にはもう一人で帰ろうと思いましたが4日目5日目になるとどうにもなれと不貞腐れて念仏して居ました。念仏している意味がないと言われればその通りですが、逆に私には念仏している意味が分かりませんでした。会費を出して頂いた方に(貧乏でお金が払えず他の方が私の分を払ってくれて居まし

た)申し訳ないのですが、仏教って何でこんな苦しい事をするの?疑問だらけの中での念仏でした。

7日目の夜は徹夜念仏です。夜どうし寝ないで朝まで念仏です。阿弥陀様の仏絵に向かつて念仏するわけですが、私は最後の朝がた不思議な経験をしました。

5時頃でしょうか涙がポロポロ出てきて止まりません、何が悲しくて泣くのではないのですが兎に角涙がポロポロ溢れて止まらないのです。不遜な事を考えながら念仏していた反省の涙か、いつも悪いことばかりしている自分を責める涙か、何かわからないのですが、念仏しながら私はポロポロ泣いて居ました。辺りが白々と明るくなってきた時、私は胸のつかえが取れたように晴れ晴れとした気分になって居ました。この経験は一体なんであったのか未だに分かりませんが、何かツキが落ちたような経験でした。ある意味自分が清らかな人間になったような錯覚に陥って居ました。これが7日間念仏した成果なのでしょうか?悟りも開け

ずこれだけの成果でしたが、何かこの修行をする前とした後では違う自分を感じて居ました。それが何なのか具体的にはわからないのですが、兎に角何かを得たように思いました。

宗教というと なになにをしてはいけない、そんな事をすると地獄に落ちるとか、こうすれば天国に行けるとか、そんな話をよく聞きますが、お坊さんのお話でお釈迦様は前世、現生、来世、の世界はどのような作られているか、特にこの地球の科学的な検知をされたのが悟りの境地であり、極楽、地獄などは抹消の話だと教わり、私は仏教をもっと知りたいと思った古知谷の正月別時でした。

楽々亭第 7月の予定

7月19日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

6月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さい。

籠谷 弘

楽々亭通信

発行元: NPO法人 没イチの会・京都

住所: 京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL: 075-874-5320 FAX: 075-874-5328

MAIL: kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。